
ハーメルンの笛吹き男

さとしん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハーメルンの笛吹き男

【Nコード】

N7340L

【作者名】

さとしん

【あらすじ】

ハーメルンの笛吹き男の一部独自解釈です。

別の小説に、一説を載せようと思っていたのですが、せっかくなので、僕の独自解釈文を、全文載せます。詳しい方、どうかご教授願います。

それは、1248年、聖ヨハネとパウロの記念日の事だった。

当時、独逸^{ドイツ}のヴェーザー川ほとりのハーメルンという町では、ネズミの大量発生が人々を悩ませていた。

増えすぎたネズミは商品の食料を喰らい、家をかじり、その被害は赤子にまで及んだ。

困り果てた住民の前に一人の男が現れた。

手にはフルートのような笛を持ち、赤や緑、黄色などの色とりどりの服装を着た道化のような格好に、人懐こい笑顔をした男だった。

男は住民に提案をした。

『もし、町中のお金を私にいただけるのであれば、その対価として私は町のネズミを全て消してみせましょう』

住民は疑いながらも、男の提案に乗る事にした。

それが、悪魔の契約とは知らずに。

男の持つ笛が美しい調べを奏で、音色が町全体に響き渡ると、町中のネズミが我先にと走り出し、ヴェーザー川へ身を投げてしまっ
た。

『町に巢食っていたネズミは全て死にました。では、報酬を。私に
対価を』

丁寧にお辞儀をする男に、住民の態度は冷ややかだった。

そして、陰口が非難へ、やがて中傷へと大きくなり、口を揃えて
『金を払わない』と告げた。

約束を反故にされた男は、氷のような瞳で住民を己の視界に入れ
る。

『約束を守っていただけませんか。なら、別の対価をいただきますし
ましょう。契約の破棄は、命を以って償わせていただきます』

男はそういつて笛を吹く前と同じように丁寧にお辞儀をし、その
場を去った。

翌日の6月26日、曇りで、今にも雨が降りそうだった。

ネズミが居なくなつた町は活気を取り戻していた。

湿り気を帯びた風が吹く昼下がり、それは突然訪れた。

ネズミを町から追い出した時と同じ音色をした笛の音が町中に響き渡つた。

あの男はまだこの町に居るのか、と住民は追い出すつもりで、男を捜した。

しばらくすると、町の入り口に子供の人だけが見えた。

中央には、赤や緑、黄色の衣服の道化の後ろ姿が、楽しそうに笛を吹いていた。

住民が口々に出て行けと罵声を浴びせる。

男は、奏でる指を止め、ゆっくりと振り返る。

本性を表した悪魔の顔がそこには有つた。

『契約破棄は命を以つて。それは町の財産である子供たちを。この町の未来を、代償にいただきます』

悪魔が楽しそうに語り、嬉しそうに晒う。

魔術を施された魔笛の音色に、まるで催眠術でもかけられたかのように、町の全ての子供たちが、整列し、歩き出した。

一歩、一歩、ゆらゆらとふらふらと、まるで夢遊病のように歩を進めるその先には、大きな大きな洞窟があつた。

町の人間も知らない洞窟。昨日もまでは確かに無かつたハズの奈落の穴。

まるで吸い込まれるように、導かれるように、一人また一人と、闇へと消えていく。

子供たちの虚ろな瞳は、一体何を写しているのだろうか。

最後の一人が大人たちの制止を振り切り、洞窟へ歩み、影が暗闇と同化する。

それを見届けた悪魔が満足そうに両手を挙げる。

『これで、契約は完了しました。皆様ごきげんよう』
深々と頭を下げ、仰々しくお辞儀を三度行う。

まるで、意思を持っているかのように、洞窟の岩が崩れだし、悪魔を、そして子供たちを飲み込んでしまった。

大粒の雨が降り、大人が吹き飛ばされるような暴風雨が、必死に掘削する作業を中断させる。

良く晴れた次の日、住民たちは愕然とする。

子供たちが消えた洞窟が在った場所は、小高い丘となっており、洞窟はおろか、岩盤すら見当たらない。

ようやく住民は理解した。

自分たちは悪魔との契約を反故にしまった、というのは前提でしかなく、あの悪魔は 自分たちが金を払わない事を初めから予想していたのだ。

悪魔に人間の金など、何の意味を持たない。

その狡猾な頭脳は、町の財政から、金を要求すれば必ず裏切ると踏み、わざと金を対価として選択したのだ。

もう二度と会えない我が子の名前を呼び叫ぶ声が、ハーメルンの丘に木霊した。

風が、悪魔の魔笛を奏でたような気がした。

(後書き)

これ、小学生の時読んで、リコーダーが怖くなり、学校のトイレが怖くなりました。

基本、チキンハートです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7340/>

ハーメルンの笛吹き男

2011年9月11日18時07分発行